

関心の高い脳ドック!

町長

問題点を検討

【米本】5月17日に受け付けた脳ドックは、30分ほどで予定人数の150人になりキャンセル待ちになつた。昨年度もれた人も、今年度



米本隆記 議員

今年度、もれた人は来年も応募できるのか。このように関心が高いため、行政のつとめと考える。今後、この脳ドックの応募方法について、どう考えているのか。

【町長】受け付け開始時には、約30人が玄関前に並んでおり、電話も込み合いなかなかつかない状況であった。9時2分には、定員に

キャンセル待ちとして追加をしているので、今年度対象の人は、来年度受診は考えてない。

[米本]大山ブランドとして力を入れていた、ピーナッツ・こんにゃく。3年間が経過し現在はどうなのか。ピーナッツの販売は今後どうなるのか。こんにゃくは香取の名前はなくなるのか。何のためのブランド開発だったのか理解できない。また、町内産品を販売し、宣伝するのが

配られた受診募集チラシ

大山ブランド開発は?

町長

支援をしていく

A black and white photograph showing a person's hands working with small plants in a white plastic tray filled with soil. The tray is rectangular with a grid pattern. Several small, dark, rounded plant seedlings are visible in the tray. The person's hands are positioned over the tray, appearing to be either planting or transplanting the seedlings. The background is dark and out of focus.

原材料の出荷のみにしたこんにゃく芋

公社の役割ではなかつたのか。大山ブランドの開発や公社の販売についてどう考えるか。

者とのものと混ぜて商品化」の提案があり、原材料出荷に専念することで所得を上げることを選んだ。恵みの里公社としては、ピーナッツの新たな展開と同じく、販売面で支援をしたいと考える。